



『イクラのパジャマ』
1999年
パジャマに油性ペン、
アクリル絵の具、縫い
上部590×1530mm
下部920×794mm

白いパジャマを埋め尽くすようにびっしりと描かれたオレンジ色の円は、すべて「イクラ」です。描くだけでは満足できず、糸でステッチまで施されたそれは、ただの衣服とは明らかに異なる雰囲気をもたらし出しています。作者のこだわりや情念がそのパジャマにしっかりと宿っていることが見て取れるでしょう。

ケアホームで生活する彼は、自分が大好きなものに包まれて眠りたいという願いを、「イクラのパジャマ」という形で表現させたのです。イクラやウニ（青いウニのパンツというブリーフも作っている）が好きなのは、おそらく太平洋沿岸部の出身というところに関係があるのでしょうか。そのほか、いかの天ぷらや、フライドチキン、サブレーのパジャマなど、多くは彼の好きな食べ物モチーフになったものです。

1999年、イクラのパジャマは公募展に出品さ

『青いウニのパンツ』
1999-2003年
パンツに油性ペン、
アクリル絵の具
303×340mm



『いくら丼のパンツ』
1999-2003年
パンツに油性ペン、
アクリル絵の具
298×332mm

下田 賢宗 Takahiro Shimoda
1983年～ /岩手県在住

れ、大賞を受賞しました。表彰式にやってきた彼は、自分が着ているパジャマが「作品」として展示されていることが納得できず、そのパジャマを持ち帰ろうと大騒ぎをしたようです。作品としてのどんな榮譽よりも、彼には、自分のパジャマであることの方が大事だったのです。やがて彼自身も、パジャマが「作品」として受け入れられていくことが自分にとっても嬉しいことであると、徐々に受け取ったようです。

イクラのパジャマは全国の展覧会で展示され、多くのファンを得ています。岩手県で毎年開かれる公募展でも、今年はどういうパジャマが出るのか楽しみにしている来訪者も少なくありません。けれども彼はそんなことには全く無関心。今もせっせと新作パジャマを制作しています。

『かぼちゃのてんぶらのパジャマ』2006年
パジャマに油性ペン、アクリル絵の具、縫い
上部558×1323mm 下部766×791mm



『はだいろおちんちんのパジャマ』2000年
パジャマに油性ペン、アクリル絵の具、縫い
上部520mm×1334mm 下部812×749mm

下田 賢宗